

HELLO PSJ

カナダ・バンクーバー留学記～悲しみを乗り越えて

University of British Columbia, Brain Research Centre, Department of Psychiatry 高橋 秀人

突然の訃報

2008年元日、私は、カナダ・バンクーバーの南部にあるイスラム教のモスクで、ラボメンバーとともに悲しみに打ち拉がれていました。ボスの Alaa El-Husseni 先生が、クリスマスイブの前日に45歳の若さで水難事故のため逝去されたからです。私が群馬大学・脳神経発達統御学講座（白尾智明教授主宰）からカナダへ移りポスドクとして働き始めてから、5ヶ月目の出来事でした。研究も軌道に乗り、Alaa とともに大きな成果を挙げていると思っていた僕にとって、とても辛く悲しい状況でした。Alaa に一度でも会ったことのある方なら誰もがご存じのことと思いますが、とても温厚でいつも笑顔の絶えない素晴らしい人格の持ち主でした。いつも新しいアイデアに満ち溢れ、研究をアグレッシブに進める彼を、ラボメンバー全員が慕っていました。Alaa の精神は、いまもみんなの中に生き続けており、彼の人格、アイデアを受け継いでみんな頑張っております。この場を借りて、Alaa のご冥福をお祈りしたいと思います。

この2008年1月の時点で、私は、帰国もやむを得ないと落胆していました。しかし、幸いなことに同じブリチッシュ・コロンビア大学、Brain Research Centre の Ann Marie Craig 先生が、私をポスドクとして雇ってくれることになり、現在、彼女の研究室でシナプス形成に関する研究を進めています。1月の時点ですぐ研究室を移ることもできたのですが、Alaa とのプロジェクトを完結させたかったので、4月まで移動を待ってほしいと Ann Marie をお願いしたところ、快く受け入れてくれました。少しでも多くの成果を挙げようと、

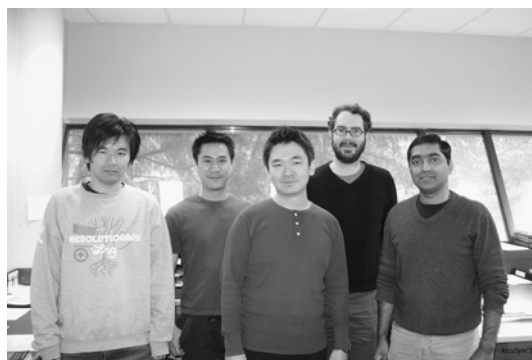


写真1 左から横幕さん、学生の Kevin、筆者、学生の Ted、インド出身のポスドク Tabrez

この間は何かに取りつかれたかのように実験を行い、アイデアも数多く出てきました。このときの仕事ぶりにラボのみんなも驚き、彼らから、Non-stop Guy と呼ばれるようになりました。Alaa 研での研究テーマは、シナプス形成・成熟に重要で自閉症関連蛋白でもある神経接着分子ニューロリジンの細胞膜上での動態を、特殊な膜蛋白ラベル法と FRAP (Fluorescence After Photobleaching) を組み合わせて明らかにすることです。4月までの2ヶ月半の間、週に一回は徹夜のペースでライブイメージングを行いました。この2ヶ月半の間に、1シリーズ20分程度のタイムラプスイメージングを合計500シリーズ分は少なくともやったと思います。この経験は、私にとって大きな自信となっております。

救いの手

新しいボスである Ann Marie もまた素晴らし

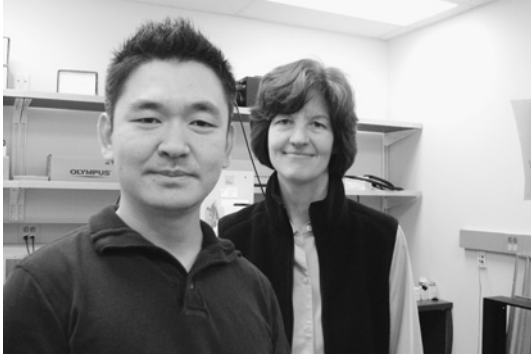


写真2 Ann Marie Craig 先生と筆者

い方で、日本から家族とともに留学に来て突然ボスを失った私に対して、十分な配慮をしてくれました。実は留学先を探す際に、Ann MarieにもEメールを送っていたのですが、Alaaのほうが受け入れ同意の返事が早く、しかも Alaa との Job Interview も Ann Marie から Eメールで返事をもらう前に日本で受けることができたという経緯があったため、Ann Marie も私のことをよく覚えてくれていたようです。現在は、彼女の恩に応えるべく、Alaa ラボでのイメージングの研究を共同研究者とともに進める傍ら、別の研究プロジェクトとして、興奮性シナプスと抑制性シナプスのバランス制御機構の解明を進めています。Ann Marie と Alaa とで研究の興味が一部一致していたことが、私にとって、とても幸運でした。Ann Marie ラボには、私のほかに新潟大学、分子神経生物学分野（那波宏之教授主宰）出身の日本人研究者の横幕大作さん、インドならびに韓国出身のポスドクが一名づつと、学生が5名、テクニシャン2名がおり、毎日楽しく実験を進めています。

Beautiful City Vancouver!

私のいるブリチッシュ・コロンビア大学 (UBC), Brain Research Centre は、200名近い faculty で構成された脳科学・神経科学の研究施設で、6つの研究領域 (neurodegeneration, multiple sclerosis, mental health and addictions, stroke, neurotrauma, vision) を柱に、質の高い研究が進められています。Graduate student や PhD 取得3年以内の研究者の多くは、CIHR (Canadian Institutes of Health Research) や MSFHR (Michael Smith Foundation for Health Research) からのサポートを受けて研究に携わっているようです。

また、UBCのあるここバンクーバーは、世界でも最も美しく（州の観光局いわく）かつ世界で3本の指に入るほど住みやすい街に選ばれているだけあって、留学生活を送るには最高の場所の一つかもしれません。私の家族もいまや、自然と都市とが融合したこのバンクーバーに永住したいと言っています。年間を通じて気候は穏やかで、とくに夏は暑すぎずとても快適です。春にはきれいな桜が咲き、夏はビーチで遊んだり、美しい山でハイキングを楽しんだり、秋は素晴らしい紅葉が身近に見られ、冬はウィンタースポーツ三昧といった感じです。また、2010年には冬季オリンピックも控えており、研究以外の面でも魅力溢れるところです。これから留学しようと考えている方、ぜひ、UBC を選択肢の一つにしてみたいかがでしょうか？

ラボの HP アドレス：

<http://www.neuroscience.ubc.ca/craig.htm>